

有識者意見

一般社団法人 環境パートナーシップ会議 副代表理事 **星野 智子** 氏

持続可能な開発のための教育(ESD)の推進、生物多様性や気候変動、SDGs策定・普及に関するNGO活動サポート、政府・企業との対話の場づくりなどパートナーシップ推進活動を行っている。2003年より地球環境パートナーシッププラザの運営に携わる。(一社)SDGs市民社会ネットワーク、(一社)海外環境協力センター、(特活)全国有機農業推進協議会、環境省SDGsステークホルダーズミーティング構成委員、越谷市環境審議会委員等を務める。

【主な書籍・論文】

「事典 持続可能な社会と教育」教育出版(2019)、「日本ボランティア・NPO・市民活動年表」明石書店(2022)、「SDGsとトイレ」柏書房(2022) (いずれも共著)



昨年の特集では、これまでの環境取り組みの実績と「サステナブルNRT2050」達成に向けた方針について書かれており、包括的な取り組みについて知ることができました。今回は、その方針に基づいて、より実践的な取り組み事例が冒頭から書かれており、さまざまな行動・アクションによってCO₂排出量を徹底的に削減しようと果敢に挑戦している姿勢を確認することができました。数多い取り組みの中で優劣は付けがたいですが、いくつか評価したい点を挙げます。

● 第3旅客ターミナルビル

環境負荷の少ない建材などのグリーン購入を推進することに加え、お客様利便性に配慮した照明やサインなど細部にわたってデザインや快適性でも工夫を施し、T3コンセプトに合致したサステナブル・エアポートの具現化を図っています。廃材を利用したインパクトのある魅力的なアートや障がい者の方の作品を取り入れたり、伐採木を利用するなどの画期的な取り組みは、次世代や海外のお客様にも広く訴求するものとして評価できます。アートの空間づくりでは、企画段階から社員の皆さんが参加し、社外の方たちとの交流促進や人材育成につながっており、SDGs達成にも重要であるパートナーシップ促進やサステナビリティの担い手づくりの効果も期待できるので注目しました。

● 周辺環境への取り組み

騒音や水・大気の汚染防止について、あらゆる方法で環境負荷の低減に努めている様子を確認できました。節水・水循環を促すために敷地内に水処理施設を設置し、雨水の有効利用も行き、騒音防止対策としては低騒音型の航空機利用に優遇制度も設けています。大気質や水質の監視を行ってWebサイトで公表する「成田空港環境こみゆにてい」によって外部と環境コミュニケーションを図っています。

ご意見をいただいて

当社の報告書発行にあたり、星野様には貴重なご意見をいただきました。厚く御礼申し上げます。

第3旅客ターミナルビルの増築については、新型コロナウイルスの影響下での供用開始となりましたが、増加するLCC需要に対応すべく、2018年度より準備を進めてまいりました。その中で、環境負荷の低減を考慮するだけでなく、「Make Terminal3 Vivid」をコンセプトに、SDGs達成に向けた取り組みに寄与するアートを設置いたしました。今後も滑走路の新設・延伸などを進めてまいります。サステナビリティに配慮した空港づくりを進めてまいります。

周辺環境につきましては、開港当初から様々な取り組みを行っております。昨今の自然災害の激甚化にもあるように、気候変動問題は世界中で注目されていますが、生物多様性との関連も注視していく必要があると感じています。今後も成田国際空港周辺の自然の豊かさを守り続けていきます。

自然環境保全については、周辺に9つもの緑化施設を設け、緑化整備に努めています。これらの整備・環境保全活動によって自然環境・景観の維持と生態系保全を続けることができます。また空港や周辺を訪問する方へのレクリエーション・自然とふれあう機会を提供しています。昨今、生物多様性の重要性や、気候変動との関わりが指摘されており、気候変動対策としても生態系保全はますます重要であることから、さらなる活動が期待されます。2030年までに陸と海の保全地域を30%増やす国際目標「30X30」が今後広まる中で、貴社の取り組みもそれに寄与するものとして注目したいと思います。

● 一つの街としての存在

今回、貴社の環境取り組みに関する施設等を視察し、その取り組みの多様さとサイズに驚嘆しました。コジェネレーションシステムによるエネルギー供給や排水やゴミの処理施設など、一つの街を形成しているかのように、ほぼすべてのインフラを整備し、メンテナンスしながら環境配慮を最大限行っている様子が伺えました。水素ステーションや動植物油脂や廃食油を利用した燃料(SAF)の受け入れなど、持続可能な未来の社会の姿を知ることができました。

さまざまなステークホルダーとの対話・コミュニケーションを丁寧に行いながら、あらゆる方法で環境負荷を低減させようとする姿勢を評価します。今後も各種の取り組みによるサステナブル・エアポートの実現を願っています。

星野 智子

成田国際空港には施設が多々ありますが、空港の運営に必要な機能を求めるだけでなく、可能な限り環境に配慮した仕組みとなっております。また、持続可能な社会の実現を目指し、SAF(P32参照)や電気自動車などの低公害車(P32参照)の導入など、航空業界の脱炭素化に向けて、新たな技術や施策を積極的に導入しています。「サステナブルNRT2050」の達成のため、今後も積極的に取り組みを推進してまいります。

成田国際空港株式会社
経営企画部門 経営計画部
部長 山本 健